

活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	緑のおもしろ講座柏		
タイトル	「松戸の穴場を探る」		
実施日時	令和 3年 3月 28日(日) 10時 ~ 13時30分		
実施場所	松戸駅周辺の浅間神社、戸定邸、中央公園		
受講者	26名	F I C会員	8名

活動の内容

午後から雨の予報の中、状況によっては雨天を避けるため進行を早める旨を予め参加者に説明してから出発。途中で降られたが幸い終了時には上がり、何とか完遂することができた。当初見学予定だった千葉大学園芸学部がコロナのため入構できなかったため、替りに数奇な歴史を持つ中央公園に変更した。

松戸駅に集合後のバス移動が順調だったので、予定通り10:30に浅間神社から講座を開始できた。独立した小山という特異な地形から富士信仰の対象となっていること、その結果参拝することで富士登山の疑似体験ができることなどを様々な証左で確認しつつ、照葉樹林として極相状態にある社叢林も観察する。

降り始めた雨のなかを戸定邸に移動。やや強く降ってきたため早々に館内に入り、齊藤名誉館長からこの建物・庭園の説明を受ける。徳川16代将軍に擬せられ華やかな経歴を積みつつあった徳川昭武が、大政奉還などの歴史の荒波に翻弄されつつ何を考え何を感じていたかを表現した屋敷と庭園の意義を理解。説明を聞いて外に出ると雨が上がっていた。昭武がパリ万博に行ったときに随行した昨今話題の渋沢栄一にも言及があった。

地面もベンチも雨で濡れゆっくり食事ができそうにないため、参加者の了解を得て昼食抜きで中央公園へ向かう。松戸の中央公園は相模台と呼ばれる比較的切り立った崖の上の高台にあるため中世から様々な山城が築かれていたが、明治に入り騎馬の重要性の増嵩に伴い競馬場となったこと、機関銃の普及により騎馬が廃れ競馬場が現在の中山競馬場に移転後、陸軍唯一の工兵学校が設置され松戸は「工兵さんの街」として栄えたこと、その校舎は終戦後東京高等工芸学校（後の千葉大学工学部）として活用されたこと、工学部の西千葉移転後不審火で校舎等は消失、その後松戸市が中央公園として管理をしていることなどを説明。その後、公園内の特徴的な木々（工兵学校時代からある堂々たるヒマラヤスギ、姉妹都市のある豪州に因んだユーカリノキやマキバブラシノキなど）と、この時期に確認し易いイヌシデメフクレフシに絡めた虫こぶの説明して、講座を終えた。

今回は、「地域新聞」一面に大きく取上げされたため大勢の初めての参加者に恵まれた。皆さんそれなりに楽しんで頂けたようである。今後リピーターになって頂けることを期待したい。

